



背景・目的

近年、毒性の高い特定外来生物ヒアリの国内侵入が国民レベルの関心事となっていることから、本種の侵入を水際で阻止するとともに万一の定着・分布拡大時の緊急防除に備えて、全国の港湾および周辺地域においてヒアリの侵入実態を踏まえた調査ガイドライン策定に向けた知見の整理や同定技術の普及、野生化個体および集団の早期発見技術を開発する。
また、ヒアリ集団防除技術を開発し、海外の研究機関と連携して、野生化個体群を対象とした防除試験を実施し、防除マニュアルの策定に資する。2020年度までに、ヒアリ防除システムを構築し、日本の生物多様性を保全するとともに、国民の安心・安全を確保する。

事業概要

1. 全国コンテナ集積エリアにおけるヒアリの侵入・分布状況の把握を踏まえ、調査ガイドライン策定に向けた知見の整理や同定技術の普及を行う。
2. DNA技術を活用した早期発見技術開発し、モニタリング調査に活用する。DNA情報をもとに侵入ルートを解明する。地図情報を利用して分布拡大予測を図る。
3. 薬剤防除技術を開発し海外における野生個体群を対象として防除試験を実施し、薬効データを収集する。得られたデータをもとに防除マニュアルの策定に貢献する。

期待される効果

○ヒアリ侵入・分布拡大を阻止し、生物多様性の保全及び国民の安心・安全を確保

事業スキーム

国立環境研究所へ交付

